

令和7年度 第1回 高山市総合教育会議 議事録

【日 時】 令和7年10月1日（水） 10時～12時

【場 所】 高山市役所 4階 特別会議室

【出席者】（構成員）	高山市長	田中 明
	教育長	見山 政克
	教育長職務代理者	長瀬 信
	教育委員	野崎 加世子
	教育委員	桑谷 康弘
	教育委員	丸山 千絵
	教育委員	野添 道子

（構成員以外の出席者）

総合政策部長、教育委員会事務局長、市民活動部長、こども未来部長、森林・環境政策部長、商工労働部長、総合政策課長、駅西複合多機能施設建設推進室長、教育総務課長、学校教育課長、文化財課長、こども政策課長、こども家庭センター長、総合政策課係長、総合政策課係員

【会議内容（次第）】

- ・市長あいさつ
- ・教育長あいさつ
- ・議題

- （1）教育大綱の推進に向けた令和7年度の取組みについて 資料1
- （2）駅西地区複合、多機能施設整備の進捗について 資料2
- （3）その他 ※非公開 資料3

【議事要旨】

総合政策部長 それでは、議題に入ります。高山市総合教育会議運営規程第3条の規定により、議長は市長が務めることとしていますので、進行を田中市長にお願いします。

市長 議題（1）教育大綱の推進に向けた取組みについて、事務局から説明をお願いします。

総合政策課長 （資料1を説明）

市長 ただいまの内容について、質問等がありましたらお願いします。

長瀬委員 2ページ11番の事業について、どの高校の生徒も地域課題の解決に向けて積極的に取り組んでおり、大変たくましいなと感じています。今回、こども未来推進委員会の委員として一步踏み込んだ形で市の運営に参画できたことは、高校生にとっても大変素晴らしいことだと思いますし、またそういった計画をしていただいたこども政策課には大変感謝しています。この委員会に飛騨高山高校の生徒2名が参加したと聞いていますが、幅広く高校生の声を聞くために市内4校の生徒が参画できるような施策を各課で検討していただくとありがたいと思っています。さらに今回のこども未来推進委員会の第1回目が8月22日に開催されたとのことですが、その時に参加した2名の高校生の雰囲気や発言について紹介してください。

こども政策課長 こども未来計画を高山市として20年ぶりに刷新しました。こどもや若者の意見をより取り入れた施策の推進に取り組むという姿勢を明確にしたいという思いがあり、高校生を委員としてこの組織に初めて入れました。

飛騨高山高校の生徒2名になったのは、校長会代表の校長先生にご相談し、ルールを決めていただき、委員となる生徒を選んでいただきました。任期が1年ですので、来年以降は順番に他の高校へお願いしていくことを考えています。市内4校の高校生から様々なご意見をいただく場の設定についても、引き続き考えていきます。

今回のこども未来推進委員会に参加していただいたのは、生徒会長や副会長といった役員を務めている学生だったようで、非常に頼もしく堂々としていて、意見もそれぞれにしっかりと発言していただきました。議事録は近日中に挙げますが、資料について分かりやすいという意見や、他の委員の意見に賛同する意見など、自身の体験を踏まえて思っていることを積極的に発言していただき、事務局としても非常に良かったと思っています。

野崎委員 今回の資料は、教育大綱の項目ごとに計画や事業内容が記載されていたので、とても分かりやすく聞かせていただきました。私からは2つ質問します。

一つ目は、1ページの教育大綱の一番最初にある「生まれ来る子どもたちが、安心して希望に満ちた日々を送ることができるようにします。」についてです。5歳児健診の実施と、そこでの事後指導や相談会の機会を充実していくことはすごくありがたいことだと思います。今まで行っていたサポートブックの継続に5歳児健診の内容が反映される形になるのかを教えてください。また事業規模が令和10年度から大きくなっていますが、この意味を教えてください。

もう一つは、1ページ6番です。保育士さんの確保は大事だと思っていましたので、処遇改善や実習の取組み等に交通費を助成していただくことは、すごくありがたいです。交通費の助成や支援もですが、今後大学連携センターも含めた研究や交流をすることで、大学の実習生が保育現場への就職先に高山を選んでいただく形になると良いと思っていましたので、実習生への支援の内容をもう少し詳しく教えてください。

こども家庭センター長 5歳児健診とサポートブックの繋がりに関するご質問に対してお答えします。

5歳児健診は今年度から開催していますが、保健センターでの集団健診となっています。5歳児はすでに保育園や幼稚園に入園されている方がほとんどですので、園での姿をしっかりと健診に反映できるよう、サポートブックを通じて事前に保護者と面談をしていただき、その結果をもって健診に臨んでいただいています。そのため、健診ではサポートブックの内容を十分把握した上での判断となります。また、健診での所見をサポートブックに記載し、在園する園に結果をお伝えするというような仕組みとしています。

また、令和10年度に予算規模が少し大きくなることについては、資料の1番に記載の家庭児童相談システムの導入を予定しています。教育委員会や他の皆さんとこどものことで共有できるようなシステムを導入していきたいという思いで、令和10年度を目途に導入予定です。

こども政策課長 保育士の確保に向けた処遇改善につきましては、国が昨年の報酬改定で10.4%という過去にない引き上げを行いまして、経験年数によって違うのですが金額にすると30万円台から50万円台というような年間での処遇改善がなされています。そういったフォローも増えている中で、保育に従事していただける方の確保が非常に重要と思っています。交通費支援の中身については、学生の交通費に対する支援と思っていまして、1回の保育実習に対し上限1万円の補助を行っています。これは福祉や介護の分野で先行した制度に追いついたような位置づけになります。ご指摘のありました大学連携センターや大学などとの連携については、非常に重要と思っていますので引き続き取り組んでまいります。

桑谷委員 今回の保育士絡みのところで6番に関連しますが、保育士はすごく重労働かつ資格を取らなければ当然なれない職業で、志を持って学校に行き、勉強をして資格を取り、社会に出ていきなり重責を担わされる現実があると思います。私の会社で働いている事務員にも、保育士を辞めて入ってきた人がいます。とても大変だったということで、保育士に戻らないのかと聞いても、戻るつもりはありませんと答えました。20代という若者に対しての保育士の責任がやはり重く、万が一のことがあった時にどのように保護者と対峙しなければいけないのかということがあるかと思います。とはいえ、ベテランの保育士がドンと構えているのかというと、多分その前に辞めている方が多いので、平均年齢や勤務年数が短い現実があると思います。その辺をしっかりとサポートしなければいけないと思います。とはいえ民間等の全く関係のない業種から見ると、保育士の処遇が上がっていくと、逆に他の業種に人材が取れないのではないのかという心配も出てくるため、非常にバランスが難しいと思います。ただ、職務や責任が年齢に対して非常に重すぎると感じるので、行政としてそのサポートは行う必要があると感じます。

こども政策課長 確かに未就学の小さなこどもを責任を持って預かるということは非常に様々な困難が伴うと思います。また保護者の皆さんも様々な考えをお持ちですので、努力してみたが合わなかったということで違う道に進む若者も一定数いると私も感じています。やはり保育の道を目指して短大なり大学なり卒業して、高山で働きたいという夢を持って来ていただいたので、できればそのような夢を実現できるような働き方ができるようにサポートす

るのが私達の仕事だと思っています。公立保育園に関しては、新人1年目でいきなり担任を持たせるようなことはせず、先輩について1年間しっかり見習いをして、2年目から担任を持つといったこともしていますし、園全体で若い人をフォローするように取り組んでいるところです。自信と誇りを持って働いていけるように引き続き取り組んでいきたいと思っています。

丸山委員 私は大阪で学童保育と保育士をしていましたが、高山に来て夫の仕事を手伝うようになり木工業界に入りました。以前あゆみ学園で少し勤めていましたが、その時に保育の道への就職を断念した理由が給料でした。生活を成り立たせるには少し厳しいという判断で家業を手伝うという形になったのですが、先ほどおっしゃられたように命を預かる仕事はやはり生活が不安にならないだけの対価が欲しいという気持ちがあったため、その部分が拡充され賃金が上がっていくことは大賛成です。あともう一つ、金銭的なフォローや制度的なフォローはすごく大事ですが、高山の保育園の何が魅力かという点、例えば清見保育園は自然保育がメインで、大阪から来た私にとっては衝撃的な保育でした。泥んこ保育をし、川の水で足を浸し、素っ裸で遊ぶこども達というのが、大阪にいた私にとって憧れの保育環境でした。私が23年前に高山に来た時に「こんな何もないところになんで来た。大阪で保育士やったら良かったのに」と言われ残念だなと思いました。自然と繋がる出来事を日々やっている環境や保育の内容をなぜもっと活かさないのかと惜しい気持ちでずっといたので、魅力ある保育園づくりをしていただきたいです。高山にはこんな保育があってこれがいんだと全国大会で発表するくらいの園を推進していくというのが、今後10年20年経った時に全国のリーダーになるようなこどもを育むことになるのではないかと思いますので、制度とともに魅力ある保育園づくりが必要だと思います。

桑谷委員のお勤め先にいらっしゃる方も重圧で押しつぶされそうになるというのはあると思いますが、園として若い人が一人で抱え込まなくていい体制を園で作り、行政ですらにバックアップするという2段階で向かっていく必要があると思います。

こども政策課長 清見保育園に限らず、自然的な保育をやってみえるところが他にもあると承知しています。そのことを昔からやっており当たり前になっていたのですが、PRもしていきたいと思っています。

野添委員 宮保育園でも泥んこ遊びをし、宮川に入って遊ぶ環境だったので、こども達もすごく楽しそうにしていました。確かにこれが当たり前になっていましたが全国的に見ればすごく魅力的な部分だと思いますので、全国に発信していくことは良いアイデアだと思います。

市長 私もよく色々な保育園に行き、給食と一緒に食べさせていただくのですが、大変でした。保育園の皆さんは毎日ですから、とても大変だと思います。魅力のあるという意味では、給食を食べている時に「この野菜、家で作ったよ」「これお父さんが作ったやつ」「これおいしいよ」と言うこどもを見て、地域の方に愛され、地域との繋がりががあると実感しまし

たので、そこを PR していきたいと思います。あとは DX です。一つの園で何かやろうと思ってはかなり難しいので、全体としてどういうことができるのかということを行行政としては考える必要があると思っています。

長瀬委員 2 ページ 10 番の学校の適正規模・適正配置の検討に関連するかもしれませんが、設置者の違う高等学校、特に県立の高等学校について発言をさせていただきます。小中学校については、義務教育学校の整備や学校の適正規模・適正配置の検討等をすすめています、少子化に伴って高等学校のあるべき姿も検討していくべき課題だと思っています。県立の高等学校は設置者が県でするので県が検討し決定していくわけですが、市として高山市内の高等学校教育のあるべき姿や思いをしっかりと議論して、しかるべき機会に県に伝えていく必要があると思っています。特に考えていきたいと思うのは、専門学科を設置している学校、いわゆる高山工業高校や飛騨高山高校の専門学科で学習している内容が地域振興などにも関わってくるので、市としてどのような教育をこれからしていくのかという検討は必要だと思います。

市長 今のことについて、県の教育長にお話をしています。特に高山工業高校と飛騨高山高校をものづくりの学校として一緒にしてくださいとお話をしました。ネガティブな意味ではなくポジティブな意味で、ものづくりだったらここに来たらなんでも学べますと。県や学校の考えも踏まえつつすすめる方向になると考えていますので、またサポートをよろしくお願いします。

桑谷委員 同じく 10 番で、学校区の再編に関しては当然パワーも必要ですし、統廃合もしくは廃校も絡んでくると思います。それと同時に学校区だけやっても仕方がないと感じます。そうになるとよりパワーのかかる町内の編成も併せてやっていかないといびつなことになってくると思います。中学校区ですと、例えば西地区のまち協だと 3 つの中学校に分割されることで連携が取れていないということがあります。ものすごくパワーが必要だということは重々承知していますが、これに手をつけないと何も変わらないと思っていますので、学校区の再編のみならず町内の再編等もぜひやっていただきたいと思います。

また 3 ページの 17 番、18 番に関して、私の会社に今年応募をしてくれた飛騨高山高校の生徒が、とにかく食品が好きで地域に貢献できる職に就きたいということで当社を選んでいただいて非常にありがたいと思っています。そういう若者がいっぱい増えると良いと思います。職業的な学科を学ぶ高山工業高校と飛騨高山高校ですと、工業高校はどちらかというと外へ人材を送り出す高校だと思っていますので、多くの人材を外に取られてしまう。逆に飛騨高山高校は地元に残る高校生が多く非常にありがたい学校だと感じます。そこにさらに IT リスキリングなどが出てくるとなると、そういう職種というものはどちらかというと普通科に絡んでくるような職種だと思います。IT では解決できない、それだけでは地域社会をまかなえない、そういった職種にも目を向けてもらいたいです。その部分の人材が減ると、そこは外国人の仕事だという考え方になってくるかもしれませんが、将来的に人材確保というところで私は危惧しているところです。志の高い子はどちらかと

いうと市外に出る傾向がありますが、その高い志の熱を高山の発展に向ける人材育成をしていただきたいと思います。

市民活動部長 まち協と中学校との連携については、例えば大八まち協では4つの小学校が絡むのですが、地域の課題を子ども達と協議し、各地区の活動に参画するという活動を始めています。また中山中でもツーハート運動という形でまち協側とも連携して、地域の活動を一緒にやっていくということも始めているところです。

総合政策部長 高山市の高校生が市外へ流れてしまうというようなお話があったと思います。市の総合計画の中で、UIJ ターンには特に力を入れています。少し前の調査では6割7割の高山市の高校生が、高山市で働きたいと思っていると答えていますが、実際は一度外に出ると帰ってこないという現実もある中で、なんとか高校生達の思いもしっかり叶えたいという思いがあります。なにか一つのことをすればそれが叶うというものではないので、高校生が地元就職したときのインセンティブのようなものも準備はしていますし、それだけでなく細かいところでの高校生へのアプローチであったり、高校生がそれぞれ頑張っている取り組みへの支援であったり、様々なところを総合的にすすめるなかで、高校生が希望を持って高山で働けるようになると良いと思っています。これをすれば解決するというものではありませんので、今後教育委員の皆さんの議論もいただきながらできるところから着実に少しずつでもすすめていきたいということです。また商工労働部でも、地元の高校生を受け入れることに関してしっかり取り組んでいると思いますので、様々なところと連携しながらしっかりすすめたいと思っています。

商工労働部長 なかなか難しい問題ですが、YAONA！という異業種間の交流事業を昨年ぐらいから始めています。参加者の満足度としては100%満足というデータが昨年出ています。高校卒とはいえ、様々なポテンシャルを持つ若者がたくさんいると感じます。その潜在的な、もしかしたら自分も気づいていないような能力、そういったところを引き出すようなキャリア形成も行っていきたいと思っています。企業にとっても、例えば今まで総務の仕事をしていた方が実はデザインなど様々なことにすごい能力を発揮できる余地があるのかもしれない。人材不足の中で、そういった個々の能力の可能性をなんとか引き出していくセミナーも行っていきたいと思っています。委員の皆さんのご意見も参考にしながら、今後に繋げていきたいと思っています。

丸山委員 1ページの3番に関して、清見のつどいの広場を改修するというので、先日乳幼児学級わくわく教室に市の職員が出向いて、利用者の意見を聞いてくださったのですが、お母さん達の意見を行政の方が聞いてくれるということで、安心して発言されていて、また普段雑談で言っているようなことも直接訴えることができたのでありがたかったと感じています。以前は近くに来てもらえるイメージがあまり無かったのですが、私たちが行く現場まで出向いて意見を聞いてくれたので、お母さん達もすごく喜んでいました。ぜひ素敵なおつどいの広場にしてください。

長瀬委員 就職関連のお話ですが、各校の校長とよく話をし、直近では9月初旬に個別に話をしたのですが、就職者の状況というのは、工業高校では半数が地元に残る。何年もそういう傾向があるという話でした。飛騨高山高校については就職する者は3割で、3割のうち1/3が地区外に出る。残りの2/3は地元に戻るという状況でしたので、ご紹介させていただきます。

市長 時間の関係もございますので、ここで議題1は終了とさせていただきますして次の議題に移らせていただきます。

それでは議題2「駅西地区複合、多機能施設整備の進捗」について説明をお願いします。

駅西複合多機能施設建設推進室長 （資料2を説明）

市長 今説明のあったほとんどの内容につきましては議会等にも説明をしており、内容自体を変えることが難しい部分もありますが、委員の皆さんからご質問等ございましたらお願いします。

桑谷委員 教育委員の中では私が一番関わりがあると思います。中心市街地活性化推進委員会など様々なところでこの話は出てきたと思いますが、私の中では運営事業者がプロポーザルで応募がないというところで止まっており、「高山ライフ&カルチャーデザイン」という団体が運営予定者であることを今ここで初めて目にしたところです。先ほど議会でも説明をしていると言いましたが、議会に出したのか、それとも一部の委員会だけに出しているのかを教えてくださいたいです。

駅西複合多機能施設建設推進室長 特別委員会で話をしましたし、市の広報たかやまにも決まったことについて掲載しました。

市長 委員会では、業者の名前も公表しています。委員会に出すということは、議員の皆さんには全部公表されることにもなります。

駅西複合多機能施設建設推進室長 3月の委員会で、その時は正式決定ではありませんでしたが、選ばれたということを報告しました。その後、市の広報たかやまで最終的にこうなりましたと周知しました。また市のホームページにも掲載しています。

市民活動部長 私どもの所管の部分がたくさんありますので、これまでも決まるたびに教育委員会に報告していましたが、十分でなかったとのことで申し訳ありません。

桑谷委員 運営業者が決まったということであれば市全体の反応が大きくても良いと思いますが、取り上げが少ないように感じます。

駅西複合多機能施設建設推進室長 周知が足りない部分もあると思っていますので、広報等の特集などにより分かりやすい形で周知できるよう検討していきたいと思います。

桑谷委員 ここに来る前に商工会議所の専務に確認をしましたが「知らない」と言っていました。それくらい露出していないということは非常に問題だと思います。

市長 広報だけでなく直接説明に行ったり、SNS など他のメディアを使った周知も検討していきます。

丸山委員 子育て支援機能について、かなりの期待があると思うので頑張ってくださいと思います。よろしくお願いします。

駅西複合多機能施設建設推進室長 こども未来部にも関わってもらいながらイメージなどを作っていますが、今までの高山にあまりない施設にしたいという思いはあります。

野崎委員 施設の考え方がユニバーサルデザインで、こどもから妊婦の方、また障がい者や高齢者の方も使いやすいような施設であることや、トイレや休息場所のことも考えられているので期待しています。私自身、障がい者や高齢者と関わることが多いのですが、免許返納後に高齢者の方々が行くところがないとかやることがないと聞くので、和室で囲碁や将棋など何かできるスペースがあるのはありがたいと感じます。
交通手段について、濃飛バスの本数など、交通機関についてどのように考えているのか教えてください。

総合政策部長 バスの路線など交通体系をどうするかといった具体的な議論はまだしていないのが現状です。この施設ができることで必ず人の流れが変わることになると思いますし、市内の他の場所も併せて交通体系を随時検討する必要があると思っています。入口など施設のレイアウトが今後決まっていきますので、それに合わせてアクセス方法やバスの路線などの検討が必要という段階です。

野崎委員 ぜひ検討をお願いします。もう一つ防災機能として避難所機能を持つとありますが、観光客を含め市民が有事の際にここに避難しても良いということを広報していただけるとより良いのではと思います。

桑谷委員 アンケートの中で一番多いのが娯楽機能とショッピングですが、これに関しては決定した運営会社が引っ張ってくるという考え方でよろしいでしょうか。結局それがないとがっかりした施設になると思います。こどもの遊び場などは設計でなんとかできるところなので、問題は運営業者がどれだけ引っ張ってくる力があるのかということだと思います。施設の何割ぐらいがショッピング施設なのか考えや見込みを教えてください。また今ある

市民文化会館は壊すことが前提なのかについても教えていただきたいです。

駅西複合多機能施設建設推進室長 商業機能をどう引っ張ってくるかについては、運営者が引っ張ってくるのではなく、設計施工を行う事業者を現在公募しているのですが、その事業者と一緒に連れてきていただきたいという形で公募しているところです。実現可能性という点については、我々も映画館を運営している施設や複合レジャー施設を運営しているような施設などに足を運んで話を聞かせていただいたところ、結果として申し上げますとかなり難しいです。実際に整備することになったとしても、敷地面積的な意味でも厳しい部分を言われておりまして、また、ビジネスとして成り立つ規模で進出できるかという点と少し厳しいという意見ももらっています。現在、応募する可能性のある事業者と話をさせてもらうことがあり、一応可能性は探ってみるというお声もいただいておりますが、厳しいことは事実だと思っています。文化会館につきましては、新しい施設ができた後に解体をします。先ほど避難所の話が出ましたが、現文化会館は指定避難所になっているので、危機管理課と調整をすすめ、新しい施設をどういう避難所と定義するか検討をすすめたいたと考えています。駐車場に関しては、現行の文化会館を運営しながら施設を整備するという条件になっていますので、基本的には今の文化会館の平面駐車場の部分だけで立体駐車場を建てるという形になります。

桑谷委員 現文化会館のところの跡地は、全く予定がない真っ白な状態になるのでしょうか。

駅西複合多機能施設建設推進室長 現状では特に何かを作るという予定はしていません。また用途地域が商業地域ではなく、学校が近いということもあり大規模な商業施設を設置する場所としては不適切な部分があるので、今後検討していく必要があると思っています。

桑谷委員 やはり商業施設に対する期待がものすごく大きく、おそらく市民の方はショッピングモールをイメージしていると思います。もちろん非常に難しい問題というのは理解できます。さらに文化ホールも大ホールを作るということになると、やはりスペースが取られるのではと感じます。私個人的には今の文化会館でも問題ないくらいと思っています。問題は箱ではなく、そこでやるソフトの方なのです。正直、文化会館のソフトの部分は不十分であると思っていますので、そういうことも考えてもらいたいと思います。

商工労働部長 個人的な意見になりますが、全国の地方都市にショッピングモールのような施設があっても若者は残らないわけで、それさえあれば若者の夢が果たされてそこに定着するものではないと思っています。ですから、高山ならではの魅力ある施設ということが大事だと思います。

市長 既存の市内の商業施設もありますし、そのバランスも考える必要があると思います。あまりきちっとしたデザインのものではなく、目的はこういう目的だけど様々な使い道ができるという施設になると良いと思います。

丸山委員 こういう施設が市の中心部にできることに関して、交通手段について先ほどもお話があったのですが、のらマイカーの範囲を少し広げて欲しいという思いがあります。無料で学校に通っているこども達がいるのに、清見のこども達はみんな自腹で払って行くわけです。学費の補助はもちろんありますので1/3は助成されますが、年間10万円ほどの交通費を払いながら高校へ行きます。例えば中学生などが休みの日にこの施設へ行くとなると、全部払わないといけないわけです。例えば、各支所地域からここまで来たらこども達はのらマイカーで行けますというように範囲を少し広げていただけると良いと思います。お願いします。

総合政策部長 先ほどの回答と少し重なりますが、公共交通に関することは、駅西の施設に限らず市民の方から様々のご意見をいただいています。いくつか融通を利かせた路線も組んでいます。今まさに議論をしているところです。駅西の施設に関係のない部分については、早く見直すことも必要というスタンスで向かっておりますのでよろしくお願いします。

市長 貴重なご意見ありがとうございました。
それでは次に、議題3に移らせていただきます。個人情報を含む内容ですので、「地方教育行政の組織および運営に関する法律」第1条の4第6項ただし書きの規定に基づき、これより会議を非公開としたいと思います。これに異議はありませんか。

各委員 (意義なし)

市長 異議なしと認め、そのようにさせていただきます。

(個人情報保護のための非公開部分)

市長 ただいまより、公開に切り替えさせていただきます。
以上で本日の議題は全て終了しました。特にこれでご質問もないようですので進行を事務局に戻します。

総合政策部長 今回の総合教育会議ですが、資料もポイントを絞って分かりやすいものにしました。そういったこともあり、今回の議論は建設的であったり、良いご提案をいただいたりと深い議論がされたと思っています。ほんとうにありがとうございました。今回いただきましたご意見の中で、要望であったりご提案というような部分もたくさんあったと思いますので、そういったところは庁内でも共有させていただきながら、今後の取り組みに繋げていく

いと考えています。以上をもちまして、令和7年度第1回高山市総合教育会議を終了します。